

# ALL NATIONS GOSPEL PUBLISHERS



[www.angp-hb.co.za](http://www.angp-hb.co.za)



[info@angp.co.za](mailto:info@angp.co.za)

## 最後の勧め

愛する読者のみなさん、あなたを愛しておられる神に、あなたが心をささげるとき、神が助けを与えてくださいますように。なぜなら、神は「わが子よ（わが娘よ）、あなたの心をわたしに与え」（箴言23・26）よと訴えておられるからです。イエスに、あなたの弱り、落胆し痛む心をさしだしなさい。そうするならば、イエスは、あなたの内に、新しい心と霊とお与えになります。あなたの欺きやすい心によってだまされてはなりません。その欲求に従ってはなりません。なぜなら、自分の心を頼む者は愚かである。知恵をもって歩む者は救いを得る（箴言28・26）からです。あなたの罪を捨てて義に道を開きなさい、罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである（ローマ6・23）からです。

自分の生命を神に委ねたあなたは、キリスト・イエスに対する信仰と愛とをもって、わたしから聞いた健全な言葉を模範にしなさい（テモテ第二1・13）。なぜなら、同じ理由で、パウロはテモテへの第二の手紙1章12節でこう述べているからです。「わたしは自分の信じてきたかたを知っており、またそのかたは、わたしにゆだねられているものを、かの日に至るまで守って下さることができると、確信しているからです。もっとも聖い信仰で自分を立て、聖霊において祈り、神の愛のうちに自らを保ち、道であり、真理であり、生命であるイエスを見上げなさい。わたしたちの主は、ご自身のものを受けいれるために、間もなく到来されます。イエスは「王の王、主の主」であります。

「あなたがたを守ってつまづかない者とし、また、その栄光のまゝに傷なき者として、喜びのうちに立たせて下さるかた、すなわち、わたしたちの救主なる唯一の神に、栄光、大能、力、權威が、わたしたちの主イエス・キリストによって、世々の初めにも、今も、また、世々限りなく、あるように、アーメン（ユダ24・25）。

備えられた、天上の場所の栄光を説明し、あるいは、記述するのにふさわしいことばは、この世にはありません。恐るべき頭がい骨(死)の代わりに、天使、または、神の使者が、この最後の絵に見られます。天使は、神に帰る義とされた霊を運ぶために待機しています。魂と霊は、死すべきからだのきずなから解き放たれ、地上でその魂が愛し、そのために生き死んだ神のふところに、開かれた天の門を通って舞い上っています。さいわいな歓待が、

神のみ前でキリスト者を待ち受けています。そこに、次の推賞するに足ることばで、主また師によってあいさつが送られているのです。『良い忠実な僕よ、よくやった。あなたは、わずかなものに忠実であつたから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ』(マタイ25・21)。サタンは、もはやクリスチャンの上に力をもつてはおりません。なぜなら、主の聖徒の死はそのみ前において尊い(詩篇116・15)からです。また、わたしは、天からの声がこう言うのを聞いた。『書きしるせ、今から後、主にあつて死ぬ死人はさいわいである』。御霊も言う。『しかり、彼らはその労苦を解かれて休み、そのわざは彼らについていく。』(黙示録14・13)からです。



10. 榮光にみちた最後のとき

もの、見えないものを求めます。また神に会う準備がなされます。流れのそばに植えられて、時がくると実を結ぶ木のようにあり、多くの実を結ぶ真のぶどうの枝のようです。さらに、死の恐れを知りません。なぜなら、聖霊によって受けた完全な神の愛が、心を満たしているからです。

## 第十の絵

イエスは言われました。わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとい死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。(ヨハネ 11・25、26)。

わたしの言葉を聞いて、わたしをつかわれたかたを信じる者は、永遠の生命を受け、またさばかれることがなく、死から命に移っているのである(ヨハネ 5・24)。死は、クリスチャンにとって恐れをも苦痛をもとどめません。死は勝利にのまれてしまった。死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか、死よおまえのとげはどこにあるのか。……しかし、感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜わったのである(コリント第一 15・55—57)。

神と共に生き歩んだ人は、死を恐れません。この世から去るとき、使徒パウロが言っているように、喜んでゆくのです。わたしの願いを言えば、この世を去ってキリストと共にいることであり、実は、その方がはるかに望ましい(ピリピ 1・23)。

クリスチャンは、自分のために死に、十字架上で罪のあがないをなしてください。くださったイエスの顔を見ようと待ちがれています。聖霊はまた、イエスの次のみことばを思い起こさせます。あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、すまいがたくさんある。……またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである(ヨハネ 14・1—3)。目がまだ見えず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかつたことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた(コリント第一 2・9)。地上で、主イエス・キリストのみ足のあとを踏み従う者のために



離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か（ローマ 8・35）。しかし、わたしを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべてのことにおいて勝ち得て余りがある（ローマ 8・37）。神のすべての武器を身につけて、悪しき日に立つことができ、イエス・キリストによっていつさいの誘惑に勝利することができ、キリストは、あらゆる試練と誘惑に勝利されました。キリストチャンはこのキリストによって必ず勝利することができ、栄光の冠を受けることができます。

星、すなわち良心は、澄んで明るくなります。心は信仰でいっぱいになり、聖霊で満たされます。神のことばであるキリストを現わす天使は、クリスチャンが勝利し、終わりまで耐え忍ぶという、与えられた尊い約束を思い起こさせます。耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい。勝利を得る者には、神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べることをゆるそう、勝利を得る者は、第二の死によって滅ぼされることはない、勝利を得る者には、隠されているマナを与えよう。また、白い石を与えよう。この石の上には、これを受ける者のほかだれも知らない新しい名が書いてある、勝利を得る者、わたしのわざを最後まで持ち続ける者には、諸国民を支配する権威を授ける、勝利を得る者は、このように白い衣を着せられるのである、わたしは、その名をいのちの書から消すようなことを、決してしない。また、わたしの父と御使たちの前で、その名を言いあらわそう、勝利を得る者を、わたしの聖所における柱にしよう。彼は決して二度と外へ出ることはない、勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちやうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である（黙示録 2・7、11、17、26、3・5、12、21）。

開かれた金袋は、心だけではなくて、金銭もまた神にささげられたことをしめています。地上のものを浪費する代わりに、十分の一（収入の十分の一）献金、あるいは、すべての持ちものをささげて、貧しい人を助けています。また、すべてのものを神の栄光のために用いています。

パンと肉は、きれいな、節制のある生活をしていることをしめています。深酔いしたり、不潔な食物を食べて身を汚すことはありません。また、金銭を浪費したり、神の宮であるからだを傷つけたりもいたしません。

## 第九の絵

この絵は、激烈な試練しれんと誘惑いごを耐え忍び、それに勝利したクリスチャンをしめしています。あらゆる方向から試みられながら、確く立ちとどまり、終わりまで耐え忍び、イエス・キリストによって勝利者となっています。クリスチャンの競走にはいったただけではなく、それを耐え、右にも左にも曲がることなく、信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つぐ（ヘブル12・2）辛抱強く走りぬいたのです。

サタンとそのすべての手下どもは、信仰の心を取り囲み、神の子たちを迷まよわせようと試みています。高慢、金銭への愛、不道德の悪鬼、その他が現わされています。ひょうの場所にはろばがおります。なぜなら、しばしば罪は形を変えて近づき、違った衣や名前の下に身をかくすからです。しかし、注意深いクリスチャンは、罪が宗教の衣を着、光の天使のように装ってくるときにさえも、それを見破ります。なぜなら、神のことばであるイエスと真実のみ霊は、すべての真理に導くからです。酒のコップを手にした一方の男は、クリスチャンの周囲を踊りながら、この世の楽しみで誘惑しようとつとめています。けれども、罪とこの世に対して、キリストと共に十字架につけられている献身したクリスチャンには、全然役に立ちません。絵の中の第二の人は、短刀でクリスチャンを刺そうとしています。神の敵と見せかけのクリスチャンによって、非常にしばしばうそつき、かげ口、欺き、おどしがなされ、本当の信者の心をたえず刺しています。しかし、クリスチャンは人の言うことには死んでおり、神がお語りになることだけを愛しています。そして、イエスの次のことばを思い起こします。わたしのために人々があなたがたをのしり、また迫害し、あなたがたに対し偽って様々の悪口を言う時には、あなたがたは、さいわいである。喜び、よろこべ、天においてあなたがたの受ける報いは大きい（マタイ5・12）。

罪、肉（利己）、悪魔は、クリスチャンを神の愛から離そうと最善の試みをしています。けれども、大きな喜びと確信をもって、クリスチャンは、本当にこう言うことができます。だれがキリストの愛からわたしたちを

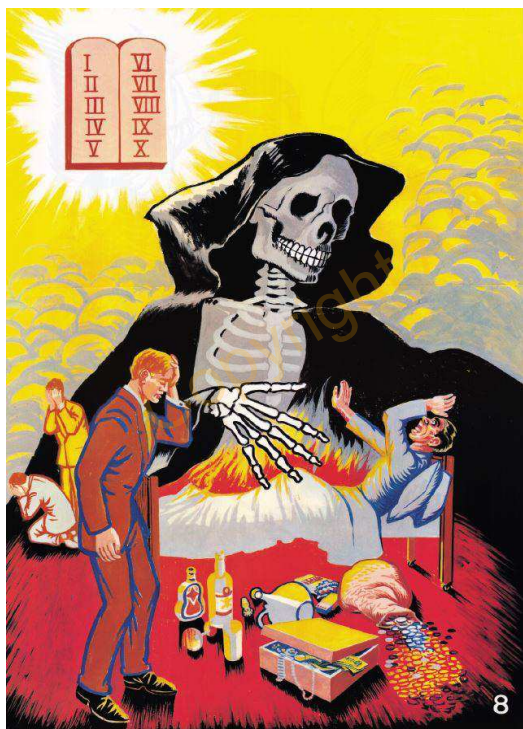
恵みより遠ざかったのみならず、破滅を宣言する神の掟に裁かれるようになっていく。へブル人への手紙10章31節にあるように、「生ける神のみ手のうちに落ちるのは、恐ろしいことである」。

人は都合のよい時に神と話し合いをつけておきたいと望み、又はそれが死の直前である場合もあろうが、それではすでに遅すぎます。多くの人々はあつと言う間に死ぬことが多いので、とても神を見出しいとまがないのです。だからこの世の生活をしている間に充分な余裕をもって神とのつながりをもつべきです。

神よりの慰めのことばに耳を傾け、神のことばに救われる代りに、死にのぞみつゝある罪人がなお神の慈愛を生前に拒むならば、裁きの声を聞かねばならぬばかりか、のろわれた者どもよ、わたしを離れて、悪魔とその他の使たちとのために用意されている永遠の火にはいつてしまえ。(マタイ25・41)〃

〃一度だけ死ぬことと、死んだ後さばきを受けることが、人間に定まっている〃

(へブル人への手紙9・27)と言ふことがあなたを待っているのです。



## 8. 罪人の洞窟と化した心



れるとすれば、神の子を踏みつけ、自分がきよめられた契約の血を汚れたものとし、さらに恵みの御霊を侮る者は、どんなにか重い刑罰に価することであろう（ヘブル10・29）。

愛するみなさん、あなたの心の状態が、これらの絵と一致するなら、さっそく心の底から神に叫び求めなければなりません。神は奈落の底にある者をも救うことができになるのです。本当に悔い改めた心で神にくるなら、神はいつさいの罪を喜んで赦してください、また、赦そうと願っておられるのです。あなたがそうしてもらいたいと願うなら、神は悪魔とそのすべての手下どもをしばりつけ、あなたの心から追い出すことができるのです。〴〵みこころでしたら、きよめていただけるのですがと行ってイエスのところに来た一人の病人のように、イエスのところにゆきなさい。そうするならば、イエスは、〴〵そうしてあげよう。きよくなれ”と言われます。けれども、心をかたくなにしつづけ、光よりも闇を愛するなら、希望も助けもありません。なぜなら、あなたが生命よりも死を選んだからです。—— 〴〵罪の支払う報酬は死である（ローマ6・23）。

## 第八の絵

ここにはなすべきことを知らないためらい、また罪に犯されて死期の近づいている罪人たちの心が示され、彼の肉体は苦痛に充ち、その魂は死の恐しさにおののいています。死（骸骨であらわされる）は突如として、予期しない時にやってきました。罪による偽わりの快樂がすぎ去り、やがて恐るべき現実のかたちを最高に伴う罪のむくいに直面せねばなりません。地獄の苦しみを罪のいけにえたちは味わうのです。たとえ、その時になつて祈ろうと、時すでに遅く神との交りの機を逸しているのです。すべての旧友たちが背をむけ、むなし慰めのことばがやつとのことですが、何の助けにもなりません。不正な方法で得た富があつても、生命を延ばし魂を救い、心の痛みをいやすことはできないのです。悪魔の占領にまかせた魂は、もはや神の力を受けようとする集中力を阻むことを知るのです。

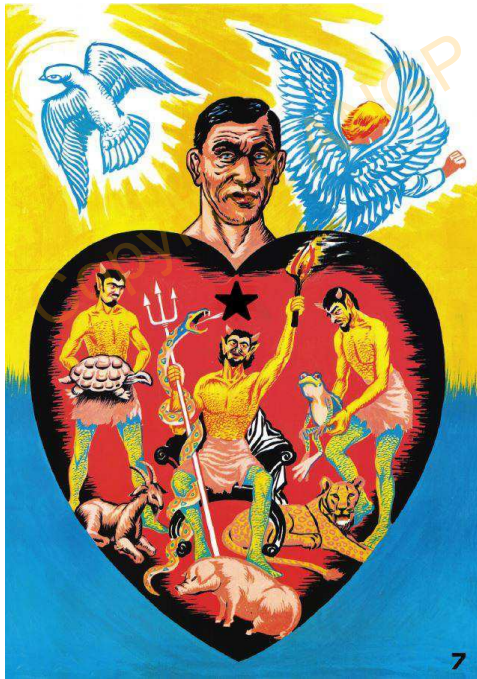
かつて愛し、また生活を共にしたすべてのものは彼にとって空しく、たのみにしていたものも力なく、神の

にむかつて、罪を犯しました（ルカ15・18）と決心しました。父親は、罪を深く悔いた息子を見て、許し、家に迎え入れたのです。

この絵にある心は、本当に悔い改めて神に立ち帰るきざしも、イエスの足下にひれ伏して救いを求めるきざしも見せてありません。良心は、熱い鉄で焼印を押されたように麻ひして、黙っています。耳があつても、イエスの呼びかける声を聞くことができず、目があつても、自分の足下に大きく口を開けている地獄の穴の底を見ることができないのです。

もはや、罪を犯しつづけることに恥を感じません。サタンがきて心を支配し心の王座に王のように座っています。白くぬられた墓のように、宗教的な外観を誇って上品にふるまうことができても、内側は死人の骨や、あらゆる不潔なものがいっぱい（マタイ23・27）なのです。

うそつきの父である悪魔は、真理のみ霊の座を占めています。あらゆる動物と罪は、特別な悪鬼と不潔な霊と共々に手をたずさえており、心を占領しています。たとい、自分を苦しめる墮落したものから逃れたいと思っても、それらはしつかりとしぱりつけられます。モーセの律法を無視する者が、あわれみを受けることなしに二、三人の証人に基づいて死刑に処せら



7. 後退し、また頑固になった心

主イエス・キリストの警告に熱心に心をとめないなら、金銭を愛することが、心の中に忍び込むことはたやすいことです。イエスはこう言われます。誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい(マタイ26・41)。  
だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい(コリント第一10・12)。「わたしたちは、神のすべての武器を身につけなければなりません。そうするならば、悪魔の策略に対抗して立つことができるのです(エペソ6・11-18)。

## 第七の絵

この絵は、墮落した心の状態を現わしています。一度光に照らされて、天より賜物を味わい、聖霊にあずかるものとされてから、墮落してしまっているのです。また「よきおとずれ」と呼ばれる福音がしめされたにもかかわらず、悔い改めて神に立ち返ることのなかった人の心の状態をしめしています。神が説きすすめられるとき、心をかたくなにする人は、自分をよくしようとするむなしき努力にもかかわらず、ますます悪くなつてゆくばかりです。

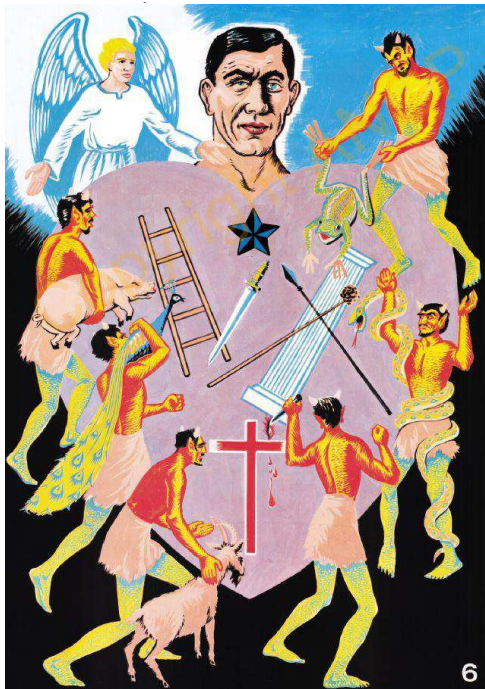
墮落した人に対して、イエスは次のように言つて、ご自分の立場を明らかにされました。「汚れた霊が人から出ると、休み場を求めて水の無い所を歩きまわるが、見つからないので、出てきた元の家に帰ろうと言つて、帰つて見ると、その家はそうじがしてある上、飾りつけがあつた。そこでまた出て行つて、自分以上に悪い他の七つの霊を引き連れてきて中にはいり、そこに住み込む。そうすると、その人の後の状態は初めよりもつと悪くなるのである(ルカ11・24-26)。「ことわざに、「犬は自分の吐いた物に帰り、豚は洗われても、また、どろの中にころがって行く」とあるが、彼らの身に起つたことは、そのとおりである(ペテロ第二・22)。

これらの絵は、墮落した人、あるいは、悔い改めない罪人の状態を明瞭に説明しています。罪は、いつさいの欺きにおいて、もう一度心にはいつてきて宿り支配します。ある点まで人の顔はその人の心の状態をうつしだします。温和なほとである聖霊は、罪と一緒に住むことができないので、心から出てゆかなければなりません。心が、同時に神の宮と悪魔の住むほら穴となることは不可能です。天使、すなわち、神のことばであるキリストは、放蕩息子がもう一度悔い改めることを望みながら、うしろを振り返りつつ、悲しく離れなければなりません。放蕩息子は、立つて、父のところへ帰つて、こう言おう、父よ、わたしは天に対しても、あなた

らの悪い提案をむさぼるのです。本当に、野鳥と不潔な思いが、頭のはるか上を飛ぶときは、どうすることもできません。しかし、わたしたちの上に住み、心に巢をつくり、その悪しき行ないをかえすことを許すなら、その罪の責任はわたしたちにあります。わたしたちが、悪魔に小さな指を渡すなら、悪魔は手全体をつかみ、魂を永遠の地獄へと引きづってゆくことは確かです。それ

ゆえに、神のおごそかな警告は、若い時の欲から逃れ、たとどのような形ではいつてこようとも、罪が遊び始めることのないようにせよということです。イエス・救済主、征服者へ逃れなさい。

この絵の中に見える男の人は、あいくちで心を刺し、キリスト教を侮るもの、反対するものと話しています。彼らは、中傷的な舌と侮りの口びるで、クリスチャンの心を刺して傷つけます。また、切られた心が助かることのできないように攻撃します。この人は、神よりも人を恐れ始めています。人が言ったりしたりすることを恐れるので、人の奴隷となり、神から遠くに押し流されています。怒りと悪い気質は、困ったとき、落胆したとき、力づくでことをなそうとするとときに現われます。あの悪しきしつとというへびは、ほかのものがもつと成功し富むときに現われ、気づかずにはいりちよつとも機会があれば、憎しみと高慢がはいるように扉を開きます。



6. 誘惑され、たちきられた心

いる（ペテロ第一—5・8）からです。非常にしばしば、悪魔は光の天使に儀装し、油断している聖徒をこの世の欲でだまします。また、その巧妙さによって試み、選びの民そのものをも欺きます。けれども、わたしたちが悪魔を拒絶するならば、悪魔はわたしたちから逃げ去るのです（ヤコブ4・7）。

## 第六の絵

これは、墮落した人の悲しい絵です。閉じ始めた一方の目は、クリスチャン生活で冷たくなり、眠くなり始めたことをしめしています。しかも、もう一方の目は、恥ずかしめもなくあたりを見廻わし、この世を愛しています。内なる光は次第に薄暗くなり、キリストと共に苦しむ準備をしめしている心の中の象徴は、小さくなり、もはや正しい状態ではありません。拒絶する代わりに次第に服従してきた誘惑に取り囲まれています。神のみ声を聞く代わりに、今や誘惑するものの悪がしこい提案とむなししい約束を聞き始めています。たとい、日曜ごとに教会へ礼拝にゆき、宗教という美名で世俗的な欲望をかくしても、神の愛は心の中で冷たくなっています。二つの意見の間をためらいながら歩く二心のものとなっています。また、この世をもてあそび、神を愛しているふりをし始めています。心の中の星である良心は、薄暗くなりつつあります。十字架はもはや笑顔で運ばれず、歓迎されない重荷となっているのです。その信仰は、あちらこちらと揺れ始め、祈りにおいて神と交わることをやめ、自分の心の状態に無関心、不注意となり、心の外で待ち伏せている誘惑者に、次第に余地を与えています。そして、真の信者と交わるよりも、この世の友と交わることを喜んでいいます。

高慢を現わしているくじやくの霊は、入口を求め始めています。この人は、恩寵のみによって救われたことを忘れて、高慢なクリスチャンとなっています。酔っぱらいが扉をたたき、入口を求めていきます。世俗的な友とのつきあいにおいて、特種な人間、弱虫、非社交的な人間と思われることが、恥ずかしいという場合があるかもしれません。悪魔は、この一つの場合は、霊的生活を傷つけることはいないと告げます。肉の思いと欲望は、そのとおりだと感じさせます。おそらく、不道徳な冗談、楽しみ、絵を何度も喜んで見ることにくしみ、不道徳な仲間と楽しみ始めます。悪魔は、それらは自然なことで、一つの罪は罪ではないのだと告げるのです。そして、この悪魔か

永遠にとどまる神の愛により、愛において生きるのです。

心の清い人たちは、さいわいである。彼らは神を見るであろう(マタイ5・8)。ダビデ王は、その富と外敵に対する勝利にもかかわらず、自分の心の中でもっとも大きな戦いがなされていることを知っていました。そこで、ダビデは、深い内なる必要を認めて祈りました。神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください(詩篇51・10)。ダビデがなしたように、真の悔い改めによって、神のみもとにきて、自らの内に新しい心をつくってくださる様に神にこい求めるのではないなら、だれひとり、自分の心を清くすることも、自分の内に清い心をつくることもできません。神は、あなたの生命に新しいことをなそうと切望しておられます。むなしい約束と保証で裂けめをつくらつた、あなたのほころびた義の衣は、あなたの心を神のふさわしいすまいとはいたしません。神は、非常に喜んで、あなたを助けようとしておられます。なぜなら、次のように約束しておられるからです。わたしは清い水をあなたがたに注いで、すべての汚れから清め、またあなたがたを、すべての偶像から清める。わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け、あなたがたの肉から、石の心を除いて、肉の心を与える。わたしはまたわが霊をあなただがたのうちに置いて、わがために歩ませ、わがおきてを守ってこれを行わせる(エゼキエル36・25―27)。これは、神がそのみ子イエス・キリストによって証印された新しい契約の意味であります。

この絵で、再び現われた天使に注目します。天使たちは、永遠の生命を受け嗣ぐ者らに奉仕し、神をおそれる者の囿りに天幕を張るように定められています(詩篇34・7、91・11、ダニエル6・22、マタイ2・13、19・18、10、使徒行伝5・19、12・7―10)。

悪魔もこの絵に現われています。悪魔は心の側に立っており、あたかも、もう一度以前住んでいたところにはいる機会をうかがっているかのようです。ですから、わたしたちは、目をさまして祈るように勧められます。なぜなら、わたしたちの敵である悪魔が、ほえたけるししののように、食いつくすべきものを求めて歩き回って

れた、さまざまな動物の代わりに、心に宿る聖霊、真理のみ霊を見るのです。心は、いまわしい罪の座となっ  
 ている代わりに、美しい実を結ぶ木、または、園となって、聖霊の実を結んでいます。それらは、愛、喜び、  
 平和、寛容、慈愛、善意、  
 忠実、柔和、自制とそのた  
 ぐいのものです。その人は、  
 今や、ぶどうの木である主  
 イエス・キリストの実を結  
 ぶ枝となっているのです。  
 この結実の奥義は、人がキ  
 リストにとどまり、キリス  
 トとそのみことばがその人  
 にとどまることです。(ヨハ  
 ネ 15・1—10)。その人が、  
 聖霊で満たされ、聖霊のバ  
 プテスマを受けたので、肉  
 とその慾に勝利し、古い人  
 を十字架にかける力をもっ  
 ています。聖霊の力によっ  
 て、み霊によって歩み、肉  
 に打ち勝つことができるのです。もはや、見、聞き、感じるによって生きるのではなく、信仰によって生き  
 るのです。なぜなら、イエス・キリストを信ずる信仰は、この世に打ち勝つ勝利だからです。確かな生ける希  
 望によって生き、わたしたちの主イエス・キリストの再臨が近いという光栄ある希望によって強められます。



5. 神の宮となった心

普通、人間は、雨や太陽がもたらす神よりのあらゆる祝福を受けようと切望しています。けれども、神の唯一の支配権に、自分を服従させようとはいたしません。多くの者にとって、神は、苦しい時の神頼みの神で充分なものにさえなっています。

兵卒が、やりでイエスのわきと心臓をさしつらぬくと、血と水とが流れ出しました（ヨハネ 19・33—37）。にわとりが鳴く前、ペテロは三度イエスを否定しました。しかし、ペテロはその後で、激しく涙を流して悔い改めました。あなたは、言葉と行ないによってイエスを告白しておられますか。あるいは、人々の前でそうすることを恥ずかかっていますか。だから人の前でわたしを受けられる者を、わたしもまた、天にいますわたしの父の前で受けいれるであろう。しかし、人の前でわたしを拒む者を、わたしも天にいますわたしの父の前で拒むであろう（マタイ 10・32、33）。

イエスはまた言われました。また自分の十字架をとってわたしに従ってこない者はわたしにふさわしくない（マタイ 10・38）。

岩なるイエス・キリストの上に立つ者は幸いです。

千歳の岩よ、わが身を囲め、  
さかれし脇の 血しおと水に  
罪もけがれも 洗いきよめよ

（讚美歌 260番）

## 第五の絵

この絵は、神の豊かな恵みとあわれみによって救われた罪人の、清められ聖化された心をしめしています。その心は、真の神の宮、父、子、聖霊なる神のすまいとなったのです。それは、イエス・キリストの約束によってなされました。もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行つて、その人と一緒に住むであろう。（ヨハネ 14・23）。神はイエス・キリストによって、人に誉れを与え、人を祝福し、引き上げられます（ルカ 1・52）。

その心は、今や真の神の宮となりました。罪は追放されました。うそつきの父であるサタンによって支配さ

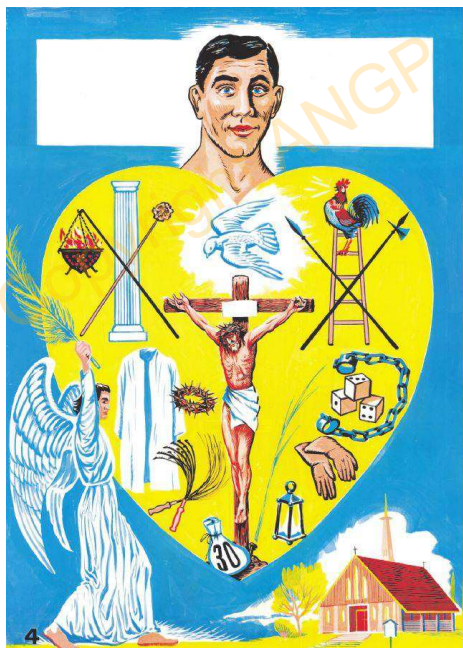


出しました。

教会の中で祈り、主の晩餐にあずかり、賛美歌を歌う自称クリスチャンが多くおります。けれども、彼らの悪しき行ないによって、救い主は新たに絶えず十字架にかけられています。『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである（マタイ7・21―27）。

この絵で、わたしたちはまた、イスカリオテのユダの財布を見ます。ユダは主イエスを裏切り、銀貨三十枚でイエスの身を敵に売りわたしました。と、いうのは、金銭への愛がユダの心を捉え、その思いをくりましたからです。かがり火や鎖などは、夜イエスを囚人として捕えた兵卒どもが用いたものです。かけごとのためにしばしば用いられたサイコロは、兵卒どもがイエスの衣を分けるとき、くじとして投げ合ったものです。

こうして、神の預言者のみことばは成就しました。『彼らは互にわたしの衣服を分け、わたしの着物をくじ引にする』（詩篇22・18）。彼らは、イエスからあらゆるものを取り上げ、イエスご自身をさえ拒絶して言いました。『わたしたちは、この男がわたしたちの上に立つことを望まない』と。



4. キリストと共にある心

された。神に奉仕しようとする、心からの願いに取って代えられました。この世と世にあるものを愛する代わりに、神と神よりのものを愛するのです。

それゆえに、この絵で動物が現わしている罪が、今は心の外にあることがわかります。たとえ、サタンが前に住んでいたその人の心から離れることをいやがっても、また、逆戻りしてもう一度はいってこつと望んでも。そういうわけで、主イエスは、目をさまして祈り、悪魔を拒絶するように、わたしたちに警告しておられます。そうするならば、悪魔はわたしたちから逃げ去ります。

## 第四の絵

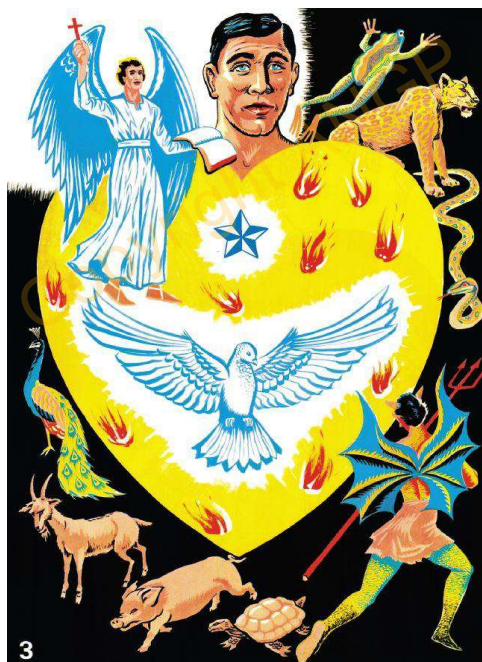
この絵は、わたしたちの主、救い主イエス・キリストの犠牲ひきいけによって、まったく平和とあがないを得たクリスチャンを語っています。クリスチャンは、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである。(ガラテヤ 6・14)と告白して、栄光を神に帰します。イエスが十字架上で死なれたので、わたしたちもまた、罪に死に、義に生きる(ペテロ第一 2・24)のです。クリスチャンは、この世に対して十字架にかけられたのです。わたしたちは、御霊によつて歩きなさい。そうすれば、決して肉の欲を満たすことはない。(ガラテヤ 5・16、)と命ぜられています。

この絵の中に、イエスが残酷にむち打たれたむちと同じように、敵に捕えられ、衣をはぎ取られて裸にされてから、しばりつけられた柱が現わされています。イエスは、わたしたちの罪のために打たれました。なぜなら、わたしたちの平安を得るためのこらしめが、イエスの上におかれたからです。ヘロデとその手下どもは、イエスをあざけり、むち打った後、金の冠をかむらせる代わりに、いばらの冠をかむらせました。また、その右手に、王のしゃくの代わりに、葦わらの棒をもたせました。さらに、彼らはイエスの前で敬礼し、ユダヤ人の王ばんざいバネザイと言つてあざけりました。彼らはイエスにつばきをかけ、イエスの手から葦の棒をとり、イエスの頭をたたきました。彼らは、このように不面目に、残酷にイエスをあざけた後で、十字架につけるために引き

わたしが顧みる人はこれである。すなわち、へりくだって心悔い、わが言葉に恐れおののく者である（イザヤ 66・2）。聖霊は、イエスのみことばをささやきます。子よ元氣を出しなさい。あなたの罪は赦されたのです。なお十字架と十字架上で流されたイエスの血を見つめるうちに、そのすべてが自分のためになされたことを信じます。すると罪の重荷が取り去られたことを認め始めるのです。というのは、イエスがわたしたちの悩みを負い、悲しみをになわれたからです。彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのであり、主はわれわれすべての者の不義を彼の上におかれた（イザヤ 53・5、6）のです。

聖霊と神の愛は、清められた心の所有者となられます。人が、十字架とイエスを信仰によつて見上げるとき、自分の罪が赦されたことを認め始めます。そこで、神のみ子イエスの血が、いつさいの罪から自分を清めたことを心に確信します（ヨハネ第一 1・7）。

今や、イエスを信する者が、滅びることなく永遠の生命をもつことを、しっかりと確信しているのです（ヨハネ 3・16）。なぜなら、イエスにおいて、神の豊かな恵みのゆえに、その血によるあがない、すなわち、罪過のゆるしを受けた（エペソ 1・7）からです。今や、罪ある肉の欲望は、神を愛し、はじめにわたしたちを愛



### 3. 後悔しはじめる心

す。イエス・キリストは義の太陽です。イエスがエルサレムの神殿におはいりになったとき、そこで売られていた牛、羊、はとなどをすべての動物を追い出され、両替人の台をひっくり返して言われました。“わたしの家は、祈の家となえらるべきであると書いてある”と。あなたの心は、神の家、神の宮となるように定められています。イエスはあなたに宿り、心を美しくし、光と愛と喜びで満たそうとしておられます。イエスは、罪を赦すだけではなく、わたしたちを救い、罪の力と支配から解放するために到来されたのです。だから、もし子（イエス）があなたがたに自由を得させるならば、あなたがたは、ほんとうに自由な者となる（ヨハネ 8・36）のです。

### 第三の絵

この絵は、真実に罪を悔い改めた心の状態をしめしています。その人はいま、イエスが十字架上で身に負うて死なれた、多くの罪の大きさと恐ろしさを知っています。天使と神のことばであるイエスが、啓示された十字架を見上げると、その十字架は、今や罪を深く悔いている心を砕きます。そして、自分の多くの罪に対して、深い心からの悔いと悲しみをもって感動されるのです。イエス・キリストにおいて現わされた神の大きな愛を見ると、この愛は心をとかします。特に、神のみ子イエス・キリストが、多くの罪を除き去るために到来され、自分に代わって呪われた木の上で喜んで死んでくださったことを認めるとき、そうであります。

イエスはむち打たれ、いばらの冠をかむらせられ、その手足をむごたらしい釘でさしつらぬかれ、わたしたちの罪のために死なれました。この事實は、心と生活を変えつつある悔い改めた罪人に、明らかに深くよりどころをもたらしめます。神のみことばを読むと、鏡で見たと同じように、自分の姿を見ることが出来ます。そして、どれほど遠く神を離れてさまよい、神の戒めを破っていたかを、さらにはつきりと認めるのです。深い敬虔な悲しみと悔いが、その人を捉えます。そして、涙と激しい叫びをもって、神の前に心をそそぎだすとき、イエスはみもとに近く引き寄せられるのです。御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめる（ヨハネ第一 1・7）ことを認め始めるとき、神の愛と平和が心にはいります。主は心の砕けた者に近く、たましいの悔いにくずおれた者を救われます（詩篇 34・18）。さらに、神のみことばは明らかに宣べています。しかし、

るのです。

このところで、罪人が、神のみことばを心にとめ、神の愛に心を開き始めたことがわかります。聖霊は暗い罪ある心にかがやき始めます。神の光は、いつさいの闇を除き去るために、神の宮におはいらになるのです。神の光がはいってくるとき、闇は外へ出てゆかなければなりません。さまざまな動物によって現わされている罪は、消え去らなければなりません。そういうわけで、愛する読者のみなさん、この世の光であるイエスをあなたの心に入れさせなさい。そうするならば、この絵でしめされているように、闇と闇の業は心を離れなければならないのです。

イエスは、わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを、歩くことがなく、命の光をもつて

あろう（ヨハネ 8・12）と言われました。あなた自身の努力や知恵、あるいは、人間の知恵によって、心から闇を追放することは断じて成功いたしません。もっとも簡単、確実、早くて有効なただ一つの方法は、光であるイエスにはいつてきてもらうことです。そうすることによって、罪すなわち闇は、離れ去らなければならぬのです。月と星は暗夜にいくらかの助けとはなりますが、太陽が昇ると小さな光も暗と同様に消え去りま



## 2. 罪の自覚と屈服する心

救うためにこの世に到来されました。悔い改める一人の罪人のために、天において大きな喜びがあります。小さな舌はまた、<sup>12</sup>「世の罪を取り除く神の小羊」なるイエス・キリストの血を語っています。

12・天使は神のことはであるイエス・キリストを現わしています。神は、惑わされ罪の重荷を負う男か女に語ろうとしておられます。それは、彼らが悔い改めて、神の光と愛を心に來たらせるためです。

13・<sup>13</sup>とはは聖靈の象徴です。聖靈は罪と義とさばきを確信させる真理のみ霊です。聖靈はここでは、人間の心の外にあります。聖靈は、罪が支配するところに宿ることはできません。

この心の絵をあなたの心の状態と一致させ、主に呼び求め、心を開くべきであります。神のことはであるイエスの光を心の中にかがやかせなさい。<sup>13</sup>主イエス・キリストを信じなさい、そうするならば救われます。確かに、神はそうすることを望んでおられます。神はあなたの心を変え、新しい心と新しい霊をそのうちに与える<sup>13</sup>と約束しておられます。このことが、第二の絵で説明されます。

## 第二の絵

この絵は、悔い改めて神を求めはじめた心を示しています。天使は、神のみことばであるつるぎをにぎっています。それは、<sup>14</sup>生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈魂と、関節と骨髄とを切り離すまでに刺しとおして、心のおもいと志とを見分けることができる<sup>14</sup>（ヘブル4・12）のです。神のみことばは<sup>15</sup>罪の支払う報酬は死であり、一度だけ死ぬことと、死んだ後さばきを受けることが、人間に定まっている<sup>15</sup>（ヘブル9・27）ことを思い起こさせます。罪人と不信仰な人の受くべきさだめは、硫黄の燃えている火の池に投げ込まれることでもあります。

天使はもう一方の手に、頭がい骨をにぎっています。これは、罪人に、人がみな死ななければならぬことを思い起こさせるためです。肉の欲求を満たすため、衣服をまとい、食物をとり、美しくして、すっかり気がうばわれるほどにいつくしんできた肉体は、死んで朽ち果てようとしています。虫はそのからだをむさぼり食べます。しかし、靈魂は永遠に生きるのです。かつ、來たるべきさばきの日には、神の審判の座の前に現われ

者であります。イエスは言われました。あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出てきた者であつて、その父の欲望どおりを行おうと思つてゐる。彼は初めから、人殺しであつて、真理に立つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。彼が偽りを言うとき、いつも自分の本音をはいてゐるのである。彼は偽り者であり、偽りの父であるからだ（ヨハネ 8・44）。小さなうそは、大きなうそと同じように悪いものです。話され、書かれ、行なわれるうそがあります。偽善者は、自分が実際にそうではないのに、そうであるかのように見せかけるうそつきです。神はうそをつくことはおできになりません——クリスチャンもうそをつくことはできません（テトス 1・2）。神と交わりをしていと言ひながら、もし、やみの中を歩いてゐるなら、わたしたちは偽つてゐるのであつて、真理を行つてゐるのではない（ヨハネ第一 1・6）。犬ども、まじないをする者、姦淫を行う者、人殺し、偶像を拜む者、また、偽りを好みかつこれを行う者はみな、外に出されてゐる（黙示録 22・15）。神は偽りをのべる証人とうそつきを憎まれます（箴言 6・19）。

9・星、それはあらゆる人の心にある良心を語つてゐます。ここには、おそらく、絶えざる悪しき罪業によつて死に、盲目になり、邪道に踏み込んだ不潔な悪しき良心があります。良心は、もはや自分の行動を判断することができません。この悪しき良心は、ある時は静かで、またある時は波乱を起こします。

それは、許すべきときに非難し、非難すべきときに許します。良心は熱い鉄によつてなされたように焼印を押されてきたのであり、信仰から離れることにより、悪魔の悪に導く霊と教理に心を留めることにより、偽善者がうそを言うことにより、いつさいの感覚と感情を失つてきたのです（テモテ第一 4・1、2、ヘブル 10・22）。

10・目、神の目は心に起こるあらゆることを見るのです。神のきらきら光る目からかくれることのできるものは、何ひとつありません。そういうわけで、神は、すべてのかくれた心の思いと意図を知り、また、見ておられます。まっ暗な夜、厚い霧、深いみぞで犯す悪しき行為であろうと、それがどこであろうと、神は見ておられます。（これらの絵の中の目も、表情と一致しています）。

11・小さな火の舌、心のまわりにある火の舌は、罪ある心を取り囲む神の愛を示しています。神は罪を憎まれますが人を愛されます。罪人が死ぬことを望まれます、悔い改めて生きることを望まれます。イエスは罪人を

滅ばされました（ヨシユア7・）。イエスの弟子イスカリオテのユダは、首をくくって自殺しました。というのは、金銭を愛することが、彼をして自分の主また師を裏切るものとしたからです。金銭や金銀が悪いのではなく、心にひそんでいる金銭を愛することが悪いのです。

あらゆる階級と人種にまたがるおびただしい数の男女が、とばくや競馬や犬のレースに多額の金をかけ、突然ひともうけしようという悪しきたくらみをもっています。それによって自分と家族の生活をささえようともくろんでいるのです。富む者になろうとする欲求は、自殺と同じように盗みと殺人をあつさり犯させます。金銭を愛することとどん欲は、名声を愛し、権力を愛するといふような、多くの仲間をもっています。それは、他人を支配しようとする政治権力であり、貧しい者をしたげられる経済的な力であり、神のためよりも教会の組織のために熱心な宗教的な力、個々の教会に忠実でなくても（マルコ9・38）あえてキリストに従がおうとする聖徒を非難する宗教的な力であります。イエスは言われました。あらゆる貧欲に対してよくよく警戒しなさい。たとえたくさんの物を持っていても、人のいのちは、持ち物にはよらないのである（ルカ12・15）。富める愚かな人の話しは次のように続きます。そこで一つの譬を語られた、「ある金持の畑が豊作であった。そこで彼は心の中で、「どうしようか、わたしの作物をしまっておく所がないのだが」と思いめぐらして言った、「こうしよう。わたしの倉を取りこわし、もっと大きいのを建てて、そこに穀物や食糧を全部しま込もう。そして自分の魂に言おう。たましいよ、おまえには長年分の食糧がたくさんたくわえてある。さあ安心せよ、食え、飲め、楽しめ。すると神が彼に言われた、「愚かな者よ、あなたの魂は今夜のうちにも取り去られるであろう。そして、あなたが用意した物は、だれのものになるのか」。自分のために宝を積んで神に対して富まない者は、これと同じである（ルカ12・16—21）。人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか（マルコ8・36）。何を食べようかと、命のことで思いわずらい、何を着ようかとからだのことで思いわずらうな……ただ、御国を求めなさい。そうすれば、これらのものは添えて与えられるであろう。……あなたがたの宝のある所には、心もあるからである（ルカ12・22—34）。

8・サタン—すべてのうそつきとうそをつかせる者の父であるサタンは、多種多様な罪の煽動者、心の支配



うに忌まわしいものです。血を流し戦争をなす悪しき欲望は、人の心のうちにあります。それゆえに、本当の平和、長く続く平和が心に確立されなければなりません。

6・へびは、エデンの園でエバを欺き、楽しい神との交わりと調和を台無しにしました。墮落した天使であるサタンは、アダムとエバがこの園の支配者であり、神と完全に結ばれて生きているのを見て、しつとし、ルシファー(魔王)の地位にのびました。しつとから、サタンは彼らの破滅を計り、そうすることに成功しました。人の心にある同じ悪魔のようなしつととねたみは、幸福で何不足なく生活している人の心にある幸いを台無しにします。『ねたみは墓のように残酷だからです』(雅歌8・6)。しつとは、他人の幸福を台無しにしようとする悪しき思いを心にいれます。そして、殺人へと導くことさえもできるのです。これは特に結婚生活をいとなんでいる人の場合に起こります。生活の他の領域においてと同じように、仕事においても、しつとは口で言い表わせない悲劇と憎しみをひき起こします。クリスチャン奉仕者、説教者、牧師も、神が自分たちよりも他の奉仕者を用いられるとき、しつとの攻撃からまぬがれることはありません。これらの人たちも、絶えず十分に用心し、聖霊によってわたしたちの心に豊かに注がれている純粋な神の愛で満たされなければなりません。神に用いられることも、その奉仕も悪魔のようなしつとの霊と結ばれることがないように。

7・かえる、地上で生きているかえるは、すべての悪の根である金銭を愛することと、どん欲の罪を語っています(テモテ第一6・10)。コンゴでは、ある種のかえるが、腹が張り裂けて死ぬまで、ありを食べているのを、多くの人が見えています。どん欲な人は、貧しい人を助けるために自分の手を開こうとはいたしません。けれども、正直な手段であれ、また不誠実な手段であれ、あらゆる手段をつくして、けつきよく朽ち去るさびと虫にしかすぎないこの世の富を集め、得ようとつとめます。イエスは言われました。『あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。あなたの宝のある所には、心もあるからである。目はからだのあかりである。だから、あなたの目が澄んでおれば、全身も明るいだらう』(マタイ6・19―22)。アカンとその家族は、金銀と美しい外套を愛して、

けれども、あなたの心にあるかめの霊は、あらゆる種類の提案を利用して、あなたが神のために決心することをおくらせます。また、恐怖であなたの心を満たそうとつとめます。わたしが本当のクリスチャンになったら、世間の人々や友人たちはいったい何と言うだろうか。ダンスや仲間との遊びやこの世の娯楽と縁を切るなら、いったい何が起るだろうか。こうして、キリストとそのすばらしい平和、口で言い表わせない喜び、栄光、幸福に満ち溢れた不死の生命のなかに、計りつくせない富を見出す代わりに、別のものを見るようになります。それは、キリストが心におはいりになるときに失わなければならないもの、あるいは、あきらめなければならぬすべてのものであります。そして、死の恐れと同様に人を恐れる恐れが、あなたを悪魔の奴隷としつづけるのです。けれども、キリストは、死の恐怖のために一生涯、奴隷となっていた者たちを解き放つために到来されたのです（ヘブル2・14、15）。あなたの決心を引き延ばす霊は、かめの甲が堅いと同じほどに、あなたの心をかたくなにしています。

5・ひょう―はどう猛、残忍な野獣です。憎しみ、怒り、悪意は、人の心を支配して時々殺人を犯かさせます。この悪い氣質を制御するようにつとめ、さらに、服従さえもさせるように努力しなさい、そうでないなら、それはそのどう猛さをことごとくほとばしらせます。この悪い氣質があなたの心にあることを認めて、イエスに救いを求めなさい。怒りをやめ、憤りを捨てよ。心を悩ますな、これはただ悪を行うに至るのみだ（詩篇37・8）。憤りはむごく、怒りははげしい、しかしねたみの前には、だれが立ちえよう（箴言27・4）。氣をせきたてて怒るな。怒りは愚かな者の胸に宿るからである（伝道の書7・9）。怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を、捨ててしまいなさい（コロサイ3・8）。

多くのふさわしくない飲みものは、何かの悪行、あるいは、復しゅうをなす勇氣を与えます。しかし、ぶどう酒はへびの毒のよう、まむしの恐ろしい毒のようである（申命記32・33）のです。復しゅうは、罪ある心には甘く感ぜられますが、神がわたしちに復しゅうされるかたであります。イエスは、自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ、あなたの敵を愛せよ、と言われました。神は、わたしたちに罪を犯す者を赦すなら、わたしたちを赦してやると約束されました。不きげんな、ぶつぶつ不平をこぼす霊は、神の前で同じよ

い（ヘブル3・7、8）。どれだけ多くの人々が都合よい日と言いのがれて救いをなおざりにしていることでしょうか。明日という日はあなたがたのものではないのです。

かめの甲はしばしば吉凶を占う魔術に用いられ、生きた神のみことばを信じる代わりに、占判断や魔術の実験に用いられました。病氣、不況、死別などの場合、幸運や不運に身をまかせ代わりに、助けを与えようと待ち構えておられる生ける神に信頼するように語られます。人の歩みは主によって定められる（詩篇37・23）。

「あなたがたの中に、病んでいる者があるか、その人は、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリブ油を注いで祈ってもらうがよい。信仰による祈りは、病んでいる人を救い、そして、主はその人を立ちあがらせて下さる。かつ、その人が罪を犯していたなら、それもゆるされる。だから互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互いのために祈りなさい（ヤコブ5・14―16）。」上げることは東からでなく、西からでなく、また荒野からでもない。それはさばきを行われる神であつて、神はこれを下げ、かれを上げられる（詩篇75・6、7）。神は、イスラエルの子らに戒めを与えていわれました。「あなたがたのうち、自分のむすこ、娘を火に焼いてささげる者があつてはならない。また占いをする者、卜者、易者、魔法使、呪文を唱える者、口寄せ、かんなぎ（または、未来を告げる者）死人に問うこと（降神術のような）をする者があつてはならない。主はすべてこれらのことをする者を憎まれるからである（申命記18・10―12）。」大ども、まじないをする者、姦淫を行う者、人殺し、偶像を拝む者、また、偽りを好みかつこれを行う者はみな、外に出されている（黙示録22・15）。これらの神霊、易者、それらにことを問う者らにくみして罪を犯し、身を汚してはなりません。あなたがたは口寄せ、または占い師のもとにおもむいてはならない。彼らに問うて汚されてはならない。わたしはあなたがたの神、主である（レビ記19・31）。」人々があなたがたにむかつて「さえざるように、ささやくように語る巫女および魔術者に求めよ」という時、民は自分たちの神に求むべきではないか。生ける者のために死んだ者に求めるであろうか。ただ、教とあかしとに求めよ。まことに彼らはこの言葉によって語るが、そこには夜明けがない（イザヤ書8・19、20）。

この小冊子を読んでいる間に、神はあなたが罪を悔い改めて、神に立ち帰るように呼びかけておられます。

のである（コリント第一6・9、10）。ここにしめされた聖句によって、このような貧慾を煽動する（煽動する）ようなことに従うべきではないことが明らかにされています。

わたしたちの心に生まれながらの罪が宿っていることは明白です。不品行・汚れ・好色・偶像礼拝・まじない・敵意・争い・そねみ・怒り・党派心・分烈・分派・ねたみ・泥酔・宴楽・および・そのたぐい……このようなことを行う者は、神の国をつくることのない（ガラテヤ5・19、20、21）。

酒に酔ってはいけません。それは乱行のものである。むしろ御霊に満たされなさい（エペソ5・18）。

イエスはうえかわくものに、だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい（ヨハネ7・37）。

さあ、かわいている者は、みな水にきたれ。金のない者もきたれ。来て買い求めて食べよ。あなたがたは来て、金を出さずに、ただでぶどう酒と乳とを買い求めよ（イザヤ55・1）。わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。（ヨハネ4・14）このような招きを与えておられます。

4・かめの絵は、怠慢、遅延、魔力を象徴します。不信仰は罪の魔術と言うべきです。なまけ者の欲望は自分の身を殺す、これはその手を働かせないからである。悪しきものはひねもす人の物をむさぼる（箴言21・25、26）。イスラエルの子にむかいヨシヤは、土地を得るために怠ってはならない」と言はねばならなかったのです。人の性質は大そう怠けがちで神が良しとされることを得ようとつとめない。そこでイエスは、狭い戸口からはいるように努めなさい（ルカ13・24）探すものは見出し、天国は激しく襲われている。そして激しく襲う者たちがそれを奪い取っている。（マタイ、11・12）と仰せられました。

救に関し怠慢で、わたしたちの魂のめざめに無関心なものは永遠の滅びにつながります。祈ること、神の真に求めておられること、神の豊かな約束から遠のくことは、破滅にみちびかれています。神があなたに今日決心してあなたの霊を神のものとしなさいと叫んでおられる時、悪魔はすかさず、明日にしなさい、またいつか都合良い時に、そして、いつまでも言うだけで実行にうつされずに、救いを受けぬままに多くの人は死んでしまうのです。きょう、あなたがたがみ声を聞いたなら：あなたがたの心を、かたくなにはいけな

のさえあります。喫煙の習慣、いや麻薬の常習は、男も女も一生を捕えてしまします。神の力によるほか、この悪習から解放されることができないのです。信心深い心の持主は教会の構内では喫煙をあえてすることはありません。それは神に対して不当だと考えるからで、喫煙によって神の宮であるからだを汚そうなどと疑いをもったことがないからです。

パウロはこう言っています。あなたがたは神の宮であつて、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか、もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであらう。不品行を避けなさい。人の犯すすべての罪は、からだの外にある。しかし不品行をする者は、自分のからだに対して罪を犯すのである。あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であつて、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。(コリント第一、3・16、17、6・18、19)

貧慾な人はまた、神の側から見ればひどく嫌われるものの一つです。わたしたちは生きるために喰べるが、喰べるためにだけに生きてはいません。餓えは何かを喰べれば解決できますが、慾望は常に「もつと、もつと」と止まるところを知りません。

慾望は無限で、後から後からつづきます。旧約聖書によれば、貧慾なもの、大酒呑みは当時の法律で石で打ち殺すことが許されていました。酒にふける者と、肉をたしなむ者とは貧しくなり、眠りをむさぼる者は、ほろを身にまとうようになる。(箴言23・21) 律法を守る者は賢い子である。不品行な者と交わるものは、父をすかしめる。(箴言28・7) また酒は人をあざける者とし、濃い酒は人をあばれ者とする、これに迷わされる者は無知である。(箴言20・1) のみことばのように、貧慾で酒に溺れるものが、いかに地上において富み、権勢をほしいままになし得ても、死後彼の魂が、口では言い表わせない苦惱に陥るかを想像するのは難くありません。

「わざわいなるかな、彼らはぶどう酒を飲むことの英雄であり、濃き酒をませ合わせることの勇士である。(イザヤ5・22) 彼らの酒宴には琴あり、立琴あり、鼓あり笛あり、ぶどう酒がある。しかし彼らは主のみわざを顧みず、(イザヤ5・12) 不品行な者……貧慾な者、酒に酔う者……いずれも神の国をつぐことはない

べて内部から出て来て、人をけがすのである（マルコ7・21—23）。

1・くじやく—だれでもくじやくの美しさには目をみはりますが、人の心の中には、誇る罪があることをたとえています。

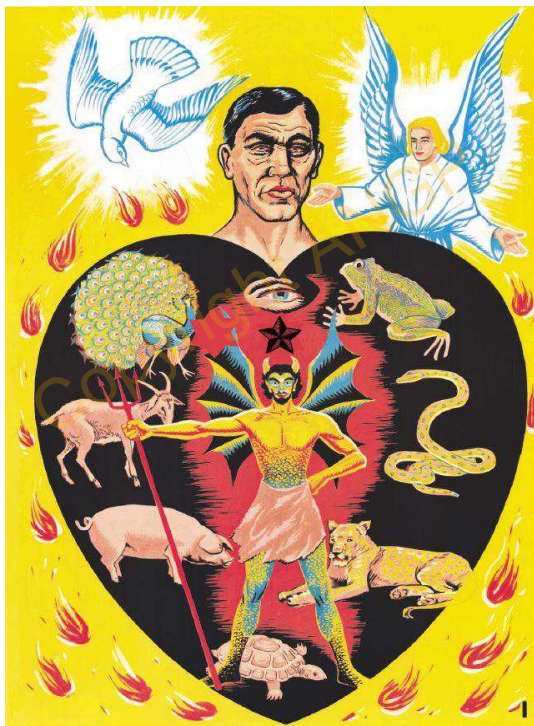
かつて神の光を掲げた天使も、誇りおごつたために陰府におち、悪魔となり、神に敵するようになりました。（イザヤ14・9—17、エゼキエル28・12—17）ある人は、富を誇り、教育の高さ、恥ずかしいようにけばけばしい服装、光りかがやく宝石に身を飾ります。（イザヤ3・17—24）また、ある人は祖先、国籍、文化、スポーツ等を誇り、次のことを忘れていきます。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである（ペテロ第一、5・5）神は、高ぶりとおごりとを憎み（箴言8・13）高ぶりは減びにさきだち、誇る心は倒れにさきだちます（箴言16・18）。

2・牡山羊—肉慾、不道徳、姦通、不義をあらわします。ここにのべる名の罪は、文明が進むに従い増大しますが、同時に二千年前キリストが言われたように最後の審判は、昔ソドムとゴモラが減びたように起きるのです。ひとり今日男女の心をつかまえて離さない近代生活に、好ましくない放徒な精神が家庭をはじめ職場、学校、集会場に浸透しています。そればかりか、目をそむけるような露骨な映画、ショー、好色文学、その他の悪の種子を播きちらして、神の戒めにそむいているのです。幾千万の若い人々が映画の影響をうけて面白おかしい空想に生き、スターたちの華美な生活ぶりに夢中になるのです。人の犯すすべての罪は、からだの外にある。しかし不品行をする者は、自分のからだに対して罪を犯すのである。あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のもではないのである（コリント第一6・18、19）。もし人が、神の宮を破壊するなら、（男も女も）神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである（コリント第一3・17）。

3・ぶた—は暴飲暴食の罪をあらわしています。ぶたは不潔で清潔だろうとなかろうと何でもむさぼり喰べます。これと同様に罪に汚れた心は、どんな悪い考えでも、ものごとでも區別せずむさぼります。人のからだも神の宮となるべきにもかかわらず、これに反して不摂生をしたり、麻薬や禁じられていることに執着するも

箴言23章29—33節に書いてあるようにどろんとした酔眼で、災ある者はだれか憂いある者はだれか、争いをする者はだれか、煩いある者はだれか、ゆえなく傷をうける者はだれか、赤い目をしている者はだれか、酒に夜をふかす者、行つて、混ぜ合わせた酒を味わう者である。酒はあかく、杯の中にあわだち、なめらかにくだる。あなたはこれを見てもはならない。これはついに、へびのようにかみ、まむしのように刺す。あなたの目は怪しいものを見、あなたの心は偽りを言う。

この絵の人物の頭の下をごらん下さい。人の心に住む多くの、また数々の罪を物語る動物に占領されていることがわかるでしょう。神は子現者エレミヤを通して心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか(エレミヤ17・9)と言われました。イエスご自身もこれを確かめて言われました。すなわち内部から、悪い思いが出て来る。不品行、盗み、殺人、姦姪、貧慾、邪悪、欺き、好色、妬み、誇り、高慢、愚知、これらの悪はす



1. 罪人 (つみびと) の心

もし、罪がないと言うなら、それは自分を欺くことであつて、真理はわたしたちのうちにない。もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。(ヨハネ第一1・8、9)。

あなたは、真実の神、または悪魔か、どちらかの支配をうけています。罪のとりことなるか、あるいは神につかえるものかどちらかです。もし、罪の生活にいるならば、それを拒まず、かえつて神に大声で不平を言うでしょう。この世の罪人たちを救うためつかわれたイエス・キリストによって、サタンの力をうちくだし、わたしたちに及ぶ罪をすっかり解決して神は自由を与えて下さいます。神はあがないをなさるかたです。そこで、あなたは聖霊の臨在、すべての秘密を見とおし、かくれたことがらや、行ないのすべてをよくご存知である神の前に立っているのです。神にあなたのすべてを隠しおはせることは不可能です。なぜなら、耳をつくつたものの耳は聞こえぬことはなく、目をかたちどつたものの目が見えぬことはあり得ないからです。主の目はあまなく全地を行きめぐり、自分に向かつて心を全うする者のために力をあらわされ、(歴代志下・16・9)。また、神の目が人の道の上にあつて、そのすべての歩みを見られるからだ。悪を行う者には身を隠すべき暗やみもなく、暗黒もない(ヨブ記34・21、22)、しかしイエスご自身は、彼らに自分をお任せにならなかつた。それは、すべての人を知つておられ(ヨハネ2・24)だからであります。

以上のようなわけで、そのとががゆるされ、その罪がおおい消される者はさいわいである。主によつて不義を負わされず、その霊に偽りのない人はさいわいである(詩篇32・1、2同51篇参照)。今日、主イエスはなお招いておられます。すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう(マタイ11・28)。

## 第一の絵

ここの絵は、悔い改めない人々、男性も女性もすべて聖書に「罪人」と書いてある世の人の心のありさまをしめしています。それは、いろいろな欲望や感情によつて支配される世の人々の状態であります。また、神の目から見た人間のみにくい姿でもあります。



# 人間の心

それは、神の宮かそれともサタンの仕事場か？  
(ヨハネ第一、3・4―10)

この小冊子を読むと、あなた自身のありのままの姿がちやうど鏡にうつしたと同じようにわかります。あなたがクリスチャンであろうがなかろうが、また信仰の有無をとわず、神が見ておられるあなたの姿がわかります。人は外の顔かたちを見、主は心を見る。(サムエル記上16・7)と聖書に書いてあるとおりで、神は公平にすべてを見ておられます。

サタン(悪魔)はすべての悪の生みの親です。サタンは暗黒の王者、この世の支配者で、みずからを光かやく天使の姿にかえ、すべての人をいつわっています。今も昔もにせもの使徒、教師が多く、あたかもキリストの弟子のようにふるまっています。コリント人への第二の手紙11・13、14をくらん下さい。

この世の神と称するサタンは、人々の眼を、心を狂わせ、真の神が人を愛し、み子イエスの死によって人を救おうとされたことを理解しがたくしています。すべての罪人、不信仰のものは神を見ることができず、この世の神と称するものに支配されています。たとえ何かのことで眼がひらき真実に気づいたとしても、依然永遠の滅亡への道を歩いており、自分は罪を犯したことはない、とうそぶいて、自分を欺いています。このことについて、聖書はこのように教えています。神の子が現われたのは、悪魔のわざを滅ぼしてしまつたためである。(ヨハネ第一3・8)「そういうわけだから、神に従いなさい。そして悪魔に立ちむかひなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるであろう」(ヤコブ4・7、8)

この小冊子には10枚のさしえがのせてあります。その一つ一つをよく見て下さい。それはあなたの心のありさまを絵にあらわしたもので、はっきりと照し出すために神のサーチライトをあててみましょう。あなたの心の中にわだかまる罪の数々を知り、その存在を否定してはいけません。なぜなら神のみことばは、次のように言っているからです。

**A SPECIAL WORD FROM ANGP**  
**UN MONDE SPÉCIAL DE L'ANGP**  
**UMA PALAVRA ESPECIAL DA ANGP**

This booklet "The Heart of Man" is available in over 538 languages and dialects spoken throughout the world (Africa, Asia, The Far East, South America, Europe, etc.) Our Heart Book is now also available on cell phones, tablets, etc from [www.angp-hb.co.za](http://www.angp-hb.co.za) or as an APP "Heart of Man" on Android phones.

Le livre du "Coeur de l'homme" peut être obtenu en plus de 538 langues et dialectes parlés dans le monde entier, à savoir: Afrique, Amérique, Asie, Extrême Orient, Europe. Notre Livre du Coeur est maintenant aussi disponible sur votre Téléphone cellulaire, tablettes, etc. de [www.angp-hb.co.za](http://www.angp-hb.co.za) ou comme une Application "Heart of Man" sur téléphones Android.

Este livro "O Coração do Homem" é obtido em mais de 538 línguas e dialetos falados em todo o mundo, a saber: (África, Ásia, América do Sul, Extremo Oriente, Europa, etc.). O nosso Livro O Coração do Homem também está agora disponível em telefone celular, tablets, etc. de [www.angp-hb.co.za](http://www.angp-hb.co.za) ou como um aplicativo "Heart of Man" nos telefones celulares Android.



The 10 heart pictures contained in this booklet are also available in the form of large coloured picture charts (86 x 61cm) bound together in a set of 10 pictures. These "Heart Charts" can be obtained with European or African features and are particularly suitable to be used in conjunction with the Heart Book for class-teaching, open air evangelization etc. Kindly contact us to ascertain the latest subsidized price of this chart.

Les 10 images du coeur qui figurent dans ce livre peuvent être obtenues en tableaux de couleur, format 86 x 61 cm, avec des physionomies européennes ou africaines. Ils peuvent être utilisés en même temps que le livre du coeur pour des classes bibliques, a

**l'ecole du dimanche ou lors de reunions de plein air. Soyez aimable de nous contacter pour assurer les derniers prix en cours du tableau.**

**As 10 imagens do coracao, contidas neste livro podem ser obtidas num conjunto de 10 imagens em colorido no tamanho de (86 x 61 cm). Estes "Cartazes do Coracao podem ser obtidos com caracterfsticas Europeias e Africanas e podem ser usados em conjuncao com o mesmo livro em classes de ensino biblico, evangelizacao ou ao ar livre. Agradecemos que nos contacta- se para confirmacao do ultimo preco dos cartazes.**



**Kindly write to us if you are able to assist us with further translations of our free Gospel literature, informing us of the language into which you could translate this Gospel literature. Your assistance would be appreciated.**

**If you have found salvation in Christ, or have been otherwise blessed through our Gospel literature, please let us know. We would like to thank God with you, and remember you further in our prayers.**

**Nous vous invitons a nous contacter pour faire des arrangements concernant de nouvelles traductions de notre litterature, nous informant de la langue dans laquelle vous pouvez traduire cette litterature evangelique. Votre aide sera beaucoup appreciee.**

**Si vous avez trouve le salut en Christ ou si vous avez ete beni par notre litterature, nous vous prions de nous le faire savoir. Nous aimerions remercier Dieu avec vous et prier pour vous.**

**Nos vos convidamos a nos contactar, afim de fazer qualquer arranjo concernente a novas traducoes de nossa literatura em outras lnguas. Vossa assistencia sera muito apreciavel.**

**Se tem encontrado a salvacao em Cristo, ou se tem sido abençoado por intermedio da nossa literatura evangelica, faca o favor de nos**

informar. Pois nos gostaríamos de agradecer a Deus juntamente convosco, e lembra-lo sempre em nossas oracoes.



For free Gospel literature, books and tracts in over 538 languages, write to:

Pour obtenir gratuitement de la litterature evangelique, des livres et des traites en plus de 538 langues, ecrivez a:

Para obter gratuitamente a literatura evangelica, livros e folhetos em mais de 538 lnguas diferentes escreva para:

**ALL NATIONS GOSPEL PUBLISHERS**

**P.O. Box 2191**

**PRETORIA**

**0001**

**R.S.A.**

[info@angp.co.za](mailto:info@angp.co.za)

**A Gospel Literature Mission financed by donations**

**Une Mission de litterature evangelique finacee de dons**

**Missao de literatura Evangelica financiada por donativos**

(Reg. No. 1961/001798/08)